

大すきなぎゅうにゅう

御津北部小・2 たかさき えいと

ぼくはまいしよく牛にゅうをのみます。牛にゅうが大すきだからです。またせん日、しずおかけんのぼくじょうでじっさいに、牛のおせ話を体けんしたので、この本をえらびました。

この本は、かとうゆうすけさんとゆうたさんが、牛のおせ話をし、ほいくえんやようちえんの子どもたちへ牛にゅうをとどけるお話です。この本を読んで一ばんびつくりしたことは、ゆうすけさんたちが、ごぜん四時三十分というあさ早い時間から、牛にえさをあげたりおせ話をしたりしているところです。ぼくがぼくじょうに行った時、むしあつくて、牛のおいがして、ゴキブリや虫もたくさんいて、こんなところで牛のおせ話をしているのかと、とてもおどろきました。牛のおせ話は、大へんなんだなと思いました。ぼくが体けんしたことは、牛のえさやりや子牛へのミルクやりだけでしたが、この本を読んで、みんなに牛にゅうをとどけるためには、らくのう家さんがあさはやくからとても大へんなしごとをして、じゅういさんやはいたつやさんなど、たくさんの人の手をかりていることがわかりました。

さらにこの本を読んで、おかあさんがこんな話を教えてくれました。しんがたコロナウイルスがはやった、二〇二〇年、ぜん国の小中学校がすべてお休みになった時、きゅうしよくがなくなつて、牛にゅうがたくさんあまつてしまいました。その牛にゅうはすてられてしまったそうです。ぼくはとてももったいなさな思いました。すてられるのもつたないから、おみせにむりようであげるか家にもちかえれたらよかつたのにな、と思いましたが、でもおかあさんがそれじゃあ、らくのう家さんにお金が入らないから、らくのう家

さんがつぶれてしまふんだよと聞き、かなしくなりました。むずかしいもんだいで、ぼくにはかいけつさくが見つかりませんでした。でもぼくはらくのう家さんのためにも、これからもたたくさん牛にゅうをのもうと思えます。